

政策評価調書（個別票①-1）

【政策ごとの予算額等】

政策名	アフリカ地域外交		評価方式	総合	番号	6
歳出予算額（千円）	19年度	20年度	21年度		22年度要求額	
（ 当 初 ）	89, 212	663, 948	95, 633		91, 011	
（ 補 正 後 ）	89, 212	663, 400	95, 633			
前年度繰越額（千円）						
予備費使用額（千円）						
流用等増△減額（千円）						
歳出予算現額（千円）	89, 212	663, 400				
	<0>	<0>				
支出済歳出額（千円）	110, 114	627, 295				
翌年度繰越額（千円）						
不用額（千円）	▲ 20, 902	36, 105				
	<0>	<0>				
達成すべき目標及び 目標の達成度合いの 測定方法						
政策評価結果を受けて 改善すべき点						
評価結果の予算要求等 への反映状況	T I C A DⅣ及びG 8サミットにおいて表明した我が国の対アフリカ支援の方向性を着実に実施し、今後の多国間枠組みでの取組に浸透させる。具体的には、T I C A Dフォローアップ・メカニズム及びG 8プロセス等の多国間枠組を通じフォローアップを行うとともに、新興援助国との対話を強化していく。このために必要な出張旅費等を計上（一部は共通経費であるため上記予算額には含まれない）し、T I C A Dフォローアップに必要な経費として要求した。 これまでの広報努力によって培われた国民各層のアフリカに対する理解や関心を維持ないし更に増進するため、広報のタイミング、ツール等に更に意を用いた活動を実施していく。また、日・アフリカ間の頻繁な要人往来に裏付けられた良好な関係の維持・増進に努めると共に、国際会議の場及び外国メディア等を利用した対外広報を積極的に推進していく。平成22年度は、こうした広報・交流活動に必要な経費を計上した。特に、2010年は多くのアフリカ諸国が独立を達成した1960年から50周年にあたることから、この機会をとらえて日・アフリカ間の良好な関係の維持・発展を図るべく、アフリカの年50周年関連事業経費を要求した。					

政策評価調書（個別票①-2）

【政策に含まれる事項の整理、棚卸し調書との照合】

政策名	アフリカ地域外交					番号	6		(千円)	
	予 算 科 目								政策評価結果等 による見直し額	
	整理番号	会計	組織／勘定	項	事項	21年度 当初予算額	22年度 要求額			
対応表において● となっているもの	A	1	一般	外務本省	地域別外交費	アフリカ地域外交に必要な経費	63,358	64,337		
	A	2	一般	在外公館	地域別外交費	アフリカ地域外交に必要な経費	32,275	26,674		
	A	3								
	A	4								
	小計						95,633	91,011		
対応表において◆ となっているもの	B	1								
	B	2								
	B	3								
	B	4								
	小計									
対応表において○ となっているもの	C	1					<	>	<	>
	C	2					<	>	<	>
	C	3					<	>	<	>
	C	4					<	>	<	>
	小計									
対応表において◇ となっているもの	D	1					<	>	<	>
	D	2					<	>	<	>
	D	3					<	>	<	>
	D	4					<	>	<	>
合計						95,633	91,011			

政策評価調書（個別票①-3）

【見直しの内訳・具体的な反映内容】

[illegible]

政策評価調書（個別票②）（政策評価書要旨）

評価実施時期：平成 21 年 8 月

担当部局名：外務省アフリカ審議官組織

政策名	アフリカ地域外交 (政策評価書[施策レベル評価版] 175 頁)	6
政策の概要	アフリカ開発の促進、アフリカ地域外交を通じた国際社会での我が国のリーダーシップ強化、及びアフリカとの二国間・多国間での協力関係を強化すること。次の具体的施策より構成される。 I-6-1 アフリカ開発会議(TICAD)プロセスを通じたアフリカ開発の推進 I-6-2 多国間枠組みにおける対アフリカ協力の推進 I-6-3 日・アフリカ間の相互交流及び我が国の対アフリカ政策に関する広報の推進	
政策に関する 評価結果の概 要と達成すべ き目標等	【評価結果の概要】 【総合的評価】 I-6 「目標の達成に向けて相当な進展があった。」 ★★★★★☆ I-6-1 「目標の達成に向けて相当な進展があった。」 ★★★★★☆ I-6-2 「目標の達成に向けて相当な進展があった。」 ★★★★★☆ I-6-3 「目標の達成に向けて相当な進展があった。」 ★★★★★☆ 【必要性】 1.「アフリカ開発会議(TICAD)プロセスを通じたアフリカ開発の推進」について (1)アフリカにおける開発、貧困削減、平和と安定等は国際社会全体の課題であり、我が国も国際社会の責任ある一員としてアフリカ開発を支援していく必要がある。 (2)アフリカは、近年好調な経済成長を達成しており、豊富な資源の存在等、潜在的成長可能性が高い地域である。こうしたアフリカの経済成長を後押しし、我が国との貿易・投資を拡大していくことは、我が国自身の経済発展にも資する。 (3)アフリカは国連加盟国の4分の1以上を占める 53 か国を擁する。我が国が、TICAD プロセスを基軸とした対アフリカ開発支援を実施し、アフリカ諸国との関係を強化し、信頼と支持を得ることは、我が国が国際社会においてより積極的な役割を果たしていく上で極めて重要である。 2.「多国間枠組みにおける対アフリカ協力の推進」について (1)アフリカが抱える、紛争や政情不安、貧困、感染症、テロ等の問題は国際社会全体の課題であり、我が国としても、国際社会の責任ある一員としてアフリカに集中する課題の解決に貢献する必要がある。 (2)G8プロセスや国連等はアフリカ問題を取り扱う主要なフォーラムであり、これらフォーラムに積極的に参加し、貢献することはアフリカの平和・安定及び経済社会開発に貢献する上で不可欠である。 (3)アフリカの課題に包括的かつ効果的に取り組む上では、我が国自身の取組に加え、様々な援助主体間の一致した努力が不可欠である。我が国は主要援助国の一つとして、サミットや各国との協議を通じ、国際社会の協調的取組を主導し、促進する立場にある。 3.「日・アフリカ間の相互交流及び我が国の対アフリカ政策に関する広報の推進」について (1)アフリカには国連加盟国の4分の1に相当する 53 の国が存在しており、国際場裡においてアフリカ諸国の支持・協力を得ることは非常に重要である。しかしながら、地理的な問題もあり日・アフリカ間の交流は未だ限定的なレベルに留まっている。アフリカとの協力関係を維持・深化させていくためには、我が国の対アフリカ外交についてはもちろん、歴史や文化、社会についてもアフリカ側の対日理解を深め、我が国に対する好感と信頼を培っていく必要がある。 (2)我が国が適切な対アフリカ政策を推し進めていくためには、我が国国民による政策への支持が不可	

欠である。従って、日本国内においてアフリカの現状に関する正確な理解とアフリカへの関心をより高い水準に引き上げ、維持していくことが必要である。

【効率性】

1.「アフリカ開発会議(TICAD)プロセスを通じたアフリカ開発の推進」について

- (1) アフリカ開発に携わる関係者は、53 のアフリカ諸国をはじめ、多数の開発パートナー（我が国を含むドナー国、地域・国際機関等）及び NGO 等、多岐にわたっている。こうした多数の関係者が一堂に会する会合（首脳会合、閣僚級会合等）の開催を通じ、効率的にアフリカ開発にかかる議論を行うことができた。
- (2) また、準備段階におけるアフリカ側との各種調整について、定期的に在京アフリカ外交団及び同 TICAD 委員会メンバーとの協議の場を設けることにより、最終成果文書に対するアフリカの声を効果的かつ効率的に反映することが出来た。

2.「多国間枠組みにおける対アフリカ協力の推進」について

予算規模、人的資源ともに大きく制約される中、G8北海道洞爺湖サミットの首脳宣言には TICADIV の重要な貢献を歓迎するとの言及が盛り込まれる等、我が国の主張を国際社会のアフリカの平和・安定、経済社会開発促進に向けた取組に反映することができた。また、中国、韓国との間で新たに対アフリカ政策に関する三国間政策協議を立ち上げ、第一回協議を我が国が主催する等、目標達成に向けた重要な進展が見られており、とられた手段は適切かつ効率的であった。

3.「日・アフリカ間の相互交流及び我が国の対アフリカ政策に関する広報の推進」について

- (1) 平成 20 年5月に開催した TICADIV の機会を中心に、各種招へい・交流事業を組み合わせる重点的にアフリカからの人物交流を行ったことにより、訪日プログラムの充実や日本国内でのアフリカ広報、アフリカ諸国内での日本に関する広報を効率的に実施することができた。
- (2) 我が国要人がアフリカ諸国を訪問する際には、内外の注目が高い会議や大統領就任式などの機会に合わせ、一度に複数国を訪れる等、効率的な渡航に努めている。特に TICADIV のフォローアップの一環として行ったアフリカ貿易・投資促進合同ミッションでは、政府要人のみならず民間企業関係者等も同時にアフリカ諸国を訪問したことにより、我が国の積極的な姿勢を効率的かつ効果的にアフリカ側に示すことができた。
- (3) TICADIV の開催に併せ、TICADIV 親善大使や TICAD オフィシャル・サポーターの活動を通じて、国民に対してわかりやすく広報を行うことができた。また、民間企業や地方自治体の協力も得つつ、多数の TICADIV のサイド・イベントを実施し、TICAD プロセスへの国民の参加も拡大した。

【有効性】

1.「アフリカ開発会議(TICAD)プロセスを通じたアフリカ開発の推進」について

- (1) アフリカ開発に携わる関係者は、53 のアフリカ諸国をはじめ、多数の開発パートナー（我が国を含むドナー国及びアジア諸国、地域・国際機関等）及び NGO 等、多岐にわたっている。TICAD プロセスは、こうした関係者が一堂に会する会合（首脳会合、閣僚級会合等）を基軸としており、各関係者間で緊密に連携を図りつつ、包括的なアフリカ開発支援策を打ち出すことができた。
- (2) また、上記会合の場を設けることにより、アフリカ諸国に対し、援助をより効率的・効果的なものとするため、自助努力（オーナーシップ）をより一層発揮するよう要請するとともに、開発パートナーに対しては、特に現下の世界的金融・経済危機の中、アフリカ支援をより積極的に実施するよう働きかける等、我が国のイニシアティブを発揮することができた。

2.「多国間枠組みにおける対アフリカ協力の推進」について

- (1) アフリカ諸国が抱える課題及び必要とする支援は膨大かつ多岐にわたる一方、我が国単独で山積す

る諸課題を解決すること及び膨大な支援ニーズを満たすことは困難であるところ、他の援助主体との協調・協力は我が国の支援をより効果的なものとする上で不可欠である。

(2) アフリカ開発及びアフリカの平和・安定は累次のG8サミットや国連等で重要な議題の一つとなっており、我が国の見解を国際社会の取組に反映させていく上で、G8プロセスや国連等多国間の枠組みを利用することが効果的である。

(3) 新興援助国による国際的な援助ルールに則らない支援は、上記援助主体間の協調の効果を大きく減殺するところ、新興援助国と協議を重ね、これら諸国が援助の国際的枠組みに参加するよう強く働きかけていくことが、上記協調の枠組みを維持していく上で効果的である。

3. 「日・アフリカ間の相互交流及び我が国の対アフリカ政策に関する広報の推進」について

(1) 地理的に遠く、民間レベルでの往来が相対的に少ないアフリカとの交流を進める上では、公的な各種招へい・交流事業の果たす役割は引き続き大きい。

(2) 我が国から政治レベルの要人がアフリカを訪問する際には、先方において大統領等首脳級の応対を受けることが多く、要人往訪による働きかけの効果は極めて大きい。また、TICADIVという大規模な国際会議後も引き続き我が国要人がアフリカ諸国を訪問することによって、アフリカにおける我が国の存在感を維持することができる。

(3) アフリカを巡る内外の状況は大きく変化しつつある一方、我が国国民がアフリカに関する正確な情報に触れる機会は乏しく、またアフリカに対する関心も相対的に低いままである。アフリカに対する理解・関心を高めるためには、各種メディア等を通じてアフリカの現状と我が国の取組について正確な情報を積極的に広報し、様々な切り口から我が国国民の関心を広く喚起していくことが有効である。

【反映の方向性】

1. 「アフリカ開発会議(TICAD)プロセスを通じたアフリカ開発の推進」について

TICAD フォローアップ・メカニズムを効果的に運用し、かつその時々のアフリカを取り巻く環境に留意しつつ、一層積極的にアフリカ開発支援を推進していく。

2. 「多国間枠組みにおける対アフリカ協力の推進」について

TICADIV及びG8サミットにおいて表明した我が国の対アフリカ支援の方向性を着実に実施しつつ、我が国の対アフリカ支援の方向性を今後の多国間枠組みでの取組に浸透させるべく、G8プロセス等を通じて然るべくフォローアップを行う。同時に、新興援助国との対話を強化していく。

3. 「日・アフリカ間の相互交流及び我が国の対アフリカ政策に関する広報の推進」について

前年に引き続き、TICADIVに直前、直後に行われた集中的な広報努力によって培われた国民各層のアフリカに対する理解や関心を維持ないし更に増進するため、広報のタイミング、ツール等に更に意を用いた活動を実施していく。同様に日・アフリカ間の頻繁な要人往来に裏付けられた良好な関係の維持・増進に務めると共に、国際会議の場及び外国メディア等を利用した対外広報を積極的に推進していく。

【達成すべき目標、測定指標、目標期間、測定結果 等】

【目標の達成状況】

[目標] アフリカ開発の促進、アフリカ地域外交を通じた国際社会での我が国のリーダーシップ強化、及びアフリカとの二国間・多国間での協力関係を強化すること。

本施策を構成する具体的施策ごとの目標の達成状況は以下のとおり。

1. 「アフリカ開発会議(TICAD)プロセスを通じたアフリカ開発の推進」について

(1) 平成20年5月28－30日、横浜において第四回アフリカ開発会議(TICADIV)を開催した。41名の国家元首・首脳級を含むアフリカ51か国、34か国の開発パートナー諸国及びアジア諸国、77の国際機関及び地域機関の代表並びに民間セクターやNGO等市民社会の代表等3000名以上が参加し、TICAD

IVは我が国外交史上類を見ない大規模な国際会議となった。

(2) 本会合では、「元気なアフリカを目指して－希望と機会の大陸」との基本メッセージの下、経済成長の加速化、ミレニアム開発目標 (MDGs) の達成、平和の定着・グッドガバナンスの実現、環境・気候変動問題への対処について活発な議論が行われた。最終成果物として、「横浜宣言」、「横浜行動計画」、「フォローアップ・メカニズム」の三つの文書が発出された。

我が国自身、平成 24 年までの対アフリカ ODA の倍増、対アフリカの民間投資の倍増支援等を含む多数の支援策を打ち出した。

(3) 平成 21 年3月 21－22 日、ボツワナにて TICAD 閣僚級フォローアップ会合を開催し、TICADIVの約束の着実な履行を確認するとともに、世界的金融・経済危機がアフリカに与える影響及びその対応策につき有意義な議論を行った。

2. 「多国間枠組みにおける対アフリカ協力の推進」について

従来からの対アフリカ支援の着実な実施に加え、G8議長国としてG8北海道洞爺湖サミット及びG8関連会合を主催し、その成果を国連でアピールするなど、国際社会のアフリカ開発、及びアフリカの平和・安定に向けた取組を促すと共に我が国自身も積極的な貢献を行った。また、G8各国等の主要先進国との協議に加え、新興援助国として存在感を増しつつある中国及び韓国との三国間政策協議を立ち上げる等、各国との協力関係の構築・強化に取り組んだ。

3. 「日・アフリカ間の相互交流及び我が国の対アフリカ政策に関する広報の推進」について

平成 20 年5月に第四回アフリカ開発会議(TICADIV)を開催し、アフリカ 51 か国、41 名の国家元首・首脳級を含む3,000 人以上の会議参加者から同会議の成果が高く評価されたこと、また、同会議にあわせて活発な広報活動を展開し、平成 20 年度には本件施策の目標(小目標)の達成に向けて相当な進展があった。

関係する施政方針演説等内閣の重要政策(主なもの)

施政方針演説等	年月日	記載事項(抜粋)
第169回国会における福田総理施政方針演説	平成 20 年 1月 18 日	本年我が国で開催されるアフリカ開発会議やサミットなどにおいて、こうした「人間の安全保障」面での課題解決に向け、G8各国やEUとも協力してまいります。
第169回国会における高村外相外交演説	平成 20 年 1月 18 日	本年、我が国は G8 サミット議長国として、北海道洞爺湖サミットを主催します。(中略) 我が国は、これら会合において、環境・気候変動、開発・アフリカ、世界経済、不拡散をはじめとする政治問題といった重要課題について力強いリーダーシップを発揮し、前向きなメッセージを発信していくべく、その成功に向けて政府一丸となって取り組みます。 また、我が国は本年5月に横浜において、第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)を開催します。「元気なアフリカを目指して」との基本メッセージの下、アフリカにおける成長の加速化、人間の安全保障の確立、環境・気候変動といった諸課題に主導的に取り組んでまいります。
第171国会における麻生総理施政方針演説	平成 21 年 1月 28 日	ODAを活用し、アフリカを初めとする途上国の安定と発展、テロとの闘い、貧困や環境問題、水問題

			など地球規模の課題の解決に貢献をします。
	第 171 国会における中曽根外相外交演説	平成 21 年 1 月 28 日	第四回アフリカ開発会議 (TICAD IV) や北海道洞爺湖サミットで約束した支援策を着実に実施していきます。人間の安全保障の理念に基づき、アフリカ諸国を初めとする開発途上国に対し、貧困削減、教育、保健、水・衛生などの分野で支援し、ミレニアム開発目標達成に向けても貢献してまいります。